

【質疑応答】

R6.7.23 外城田地区

参加者①：勢和小学校を同様に統合する想定はあるか。

事務局：令和13年度の開校時点で勢和小学校をあわせて統合することは想定していない。ただし、その後の勢和小学校の児童数の推移状況をみて検討する必要があると考えている。

参加者②：令和10年度の3校統合の方法について教えてほしい。

事務局：統合の方法について準備委員会の部会で検討中である。現時点の事務局案として、3校統合の施設は佐奈小学校を想定している。施設が比較的新しく、グラウンド面積及び施設の延床面積が最も大きいためである。津田小学校と外城田小学校の児童が佐奈小学校に通う想定である。3校統合の学校名は「佐奈小学校」ではなく、新しい校名を使用する予定である。令和13年度以降も同校名を使用する想定である。

参加者③：新しい学校について、ソフトについても新たな取り組みの想定があれば教えてほしい。

事務局：多気町の小学校の特色の一つとして、各小学校に司書が常駐している点がある。統合小学校においても図書の活動を重要視している。また、学校運営協議会(CS)にも力を入れ、地域連携の考え方を整備にも取り入れる。地域の方々が学校に滞在できる場所を設けることを想定している。

参加者④：統合に伴い教員数は減少することになるのか。

事務局：基準による計算では、3校統合の統合後の教員数は現在の3校の合計数よりも少なくなる可能性がある。教員の負担軽減も考慮して、手厚い体制が組めないか検討する。

参加者⑤：不登校の児童に対する配慮が重要だと考える。

事務局：不登校の児童が来やすい学校づくりを目指したい。

参加者⑥：資料2 学年当たり70名。教員からみると適正は20～25人と考える。

事務局：基準としては学年あたり35人である。35人を一人の教員が担当することは非常に負担が大きいと考える。児童のための、教員体制を検討したい。

参加者⑦：通学距離が長くなるため、スクールバス等は検討しているか。

事務局：基本的には、4キロ以上が遠距離通学となる。子どもたちの運動量の不足になら

ないよう、スクールバスと併用し検討していく。

参加者⑧：子どもたちや地域の方の意見を聞くことが重要ではないか。

事務局：住民意見を聞く機会を設けたいと考えている。小学校1・2年生に意見をきくことは難しいが、小学校5・6年生に意見を聞くことも可能である。アンケート等で児童の意見を聴取することも検討する。

R6.7.24 津田地区

参加者①：勢和小学校を同様に統合する想定はあるか。

事務局：令和13年度の開校時点での勢和小学校をあわせて統合することは想定していない。ただし、その後の勢和小学校の児童数の推移状況をみて検討する必要があると考えている。

参加者①：今後、10～20年以内には、勢和小学校の統合も検討事項となると思う。将来的な統合も視野に入れておく方が良い。

参加者②：3校統合が令和9年として前倒しするという説明を受けた記憶があるが、令和10年に3校統合することは確定か。

事務局：3校統合は令和10年を予定している。令和9年の3校統合を住民の方に説明したことはない。仮に、保育園の統合と合わせて令和9年に小学校統合を実施することは一定の合理性はあるが、学校職員やスクールバスを含めた学校運営を考慮すると難しい。

参加者③：太陽光発電設備の導入は必須か。

事務局：確定したものではない。多気町として温暖化対策実行計画が令和6年3月に策定されており、ZEBという指標で表しているが、新築の公共施設については環境負荷への配慮が必要である。また、災害時の避難所になることを想定した時に、太陽光発電は有効であると考え、設計段階で採否ついて検討する。

参加者③：太陽光発電設備導入に関する費用対効果については比較検討するか。

事務局：検討する。

参加者③：設備機器の廃棄までのライフサイクルコストの観点で検討してほしい。

参加者④：統合小学校の整備に関して、他の小学校との差別化を図っても良いのではないかと。森の中に建つ学校でもあるので、原風景を活かしつつ魅力ある学校にしてほしい。この小学校があるから多気町に住みたいとなるように、小学校の特色が認知されるものになってほしい。

事務局：教育委員会としても、統合小学校の特色を出すことを検討している。統合小学

校のハード・ソフトの取り組みが移住を呼び込むようなものになればよい。
多気町は各学校の図書室に司書が常駐していることが特徴である。CS（コミュニティスクール）としての活動形態についても議論している。そのような活動も考慮して、統合小学校の整備方針を検討中である。

参加者⑤：夏休み期間中に自習できるスペースが不足している。公民館等を活用して自習スペースの充実化を図ってほしい。

参加者⑥：奇抜なデザインは求めているない。

参加者⑦：3校統合の施設は佐奈小学校となるのか。

事務局：現在、準備委員会で議論している。一つの案として、佐奈小学校を想定している。理由はグラウンド及び施設の規模が大きいため。スクールバスを想定した場合、接道状況等も考慮して一番良いのではないかと考えている。現段階では、バスルート等の詳細は決まっておらず、検討段階としている。

参加者⑦：施設の完成を早めて、3校統合で先行して使用することは考えられないか。

事務局：統合小学校整備にかかる、造成設計、造成工事、建築設計、建設工事等の期間を考えると、完成は令和12年度末となり。それ以前の使用は厳しい。

参加者⑧：佐奈小学校のアクセス道路について、最後の道が狭い。交通安全性のための改良が必要ではないか。

事務局：バスの車体寸法を計測のうえ、検討している。道路を拡幅せずに対応することを考えている。佐奈神社とも今後協議してアクセス動線を検討する。国道に隣接している町有地の活用についても今後検討する。

参加者⑦：民間活力可能性調査は必要か。

事務局：PFIで民間が資金調達することで財政負担の平準化が図れる。可能性調査によって民間事業者の参画意向を確認し、最適な手法を選定する。

参加者⑦：民間活力可能性調査は1年間の期間が必要か。

事務局：可能性調査は、事業概要等の公表資料の作成や民間事業者へのヒアリング及びヒアリング結果の事業計画への反映等も含めて、期間を要する。

R6.7.30 佐奈地区

参加者①：「資料1 4校統合の実施時期について」の「ただし、その時期は新たな学校施設が完成した上で、・・・体制が整い次第とします。」という統合の時期についての文言の意図を確認したい。

事務局：建築資材の調達等、開校時期への影響に対する予測が難しい要因がある。そのような要因を考慮して、統合の準備が整えば令和13年4月から開校する、という意図で文言を記載している。

参加者①：令和10年4月からの3校統合とすれば、複式学級は発生しないということか。

事務局：児童数の予測の結果、津田小学校が令和8年度から、外城田小学校は令和9年度から複式学級が発生することが想定される。

参加者①：適切な学級数についての認識を確認したい。

事務局：文科省の学校教育法施行規則により、標準的な学級数は12～18学級（ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。）とされている。

参加者②：公設民営化は流行っているが失敗するリスクが高い。リスクを考慮して学校運営の中でどの部分を民営化するかを検討すべき。

事務局：PFIだからといって学校運営を全て民営化するわけではない。今後、慎重に議論して検討していきたい。

参加者③：令和10年度に3校統合、令和13年度に4校統合という認識でよいのか。

事務局：準備が整えば令和13年4月に4校統合する。なお、令和10年度の3校統合は、相可小学校以外の児童からすると令和13年度にいきなり大人数のクラスとなると心理的な負担が大きいのではないかという点も考慮したものである。

参加者①：他の校区别説明会ではどんな意見が出たか。

事務局：3校統合については、進めるべき、早く行ふべきという声が多かった。また、男女比についても注目したい、例えば佐奈小学校の令和10年度入学生の男女比が男性の児童が7人、女性の児童が1人である、他校でもこのような状況があり、令和10年度の3校統合が望ましいと考える。

参加者①：反対意見も尊重して統合については検討してほしい。

参加者④：令和10年度に3校統合をすると短い期間で2回の統合を経験する児童が発生し、負担が大きいのではないかと考える。そのような児童と対話して意見を聞いて検討しているか。

事務局：統合を2回経験する児童は現時点で未就学児のため、対話はできていない。未就学児の保護者の方の声を聞いて検討していく予定である。

参加者④：統合を繰り返し経験する児童の負担を考慮して検討してほしい。複式学級のデメリットを確認したい。

事務局：佐奈小学校で昨年開催した子どもたち議会のように、小学校5,6年生であれば統

合について判断できるが、未就学児は判断できないため対話することは難しいと考える。複式学級のデメリットについて、各学年 1 学級より複式学級は学習の質が低下してしまうのではないかと考える。

参加者①：教師の負担も大きいと、複式学級はデメリットが大きいと考える。

参加者⑤：3 校統合、4 校統合の両方について、スクールバスに対する考え方を確認したい。

事務局：3 校統合については、佐奈小学校以外の 2 校の児童にはスクールバスの利用を想定している。ただし、4 校統合時のスクールバスの運用方法と合わせて、現在、学校運営に関する部会で運用方法を検討している段階である。

参加者⑤：佐奈小学校への 3 校統合は決定ではないということか。

事務局：決定ではないが、校舎の新しさ、敷地面積の広さ、アクセス性等を考慮して、事務局案としては佐奈小学校案で、部会で検討中である。

参加者⑥：勢和小学校も校舎が古いが統合するのか。今後、統合するのであれば、考慮して学校規模を検討すべきではないか。

事務局：勢和地区については現時点で計画はない。ただし、令和 13 年度、14 年度には勢和小学校の児童が半減するため、4 校統合のあとに勢和小学校の統合も視野に入れている。学校規模については、将来的な統合も視野に入れて検討していく。

参加者⑦：相可小学校以外の児童の視点から、いきなり相可小学校を含めた 4 校統合は避けることが望ましく、先行して 3 校統合することがよいと考える。

事務局：事務局としても、児童の負担を考慮して先行して 3 校統合をしてから 4 校統合とすることを検討している。

参加者⑧：3 校統合のスケジュールはいつ決定するのか。

事務局：準備委員会で議論した上で、令和 6 年度中には結論を出したい。

参加者⑨：新しい学校について建設費はどのくらいか、補助金の活用は考えているか。

事務局：物価高騰が続いているため予測できない部分が大きく、現時点で建設費は未定である。補助金の活用は想定している。

R6.7.31 相可地区

参加者①：統合自体には賛成だが、行きたい学校というコンセプトには、具体的にどういうことか示されていない。また、住民の意見を反映するようにしてほしい。対外的に自慢できるような校舎など、今後の増加につながるような学校づくりとなればよい。

事務局：5月から準備委員会を開催し、教職員及び保護者とともに学校づくりについて議論を行い、意見をいただいている。今後も保育園児の保護者や、現在の小学校5、6年生の意見を伺う予定である。そのようにして、住民の意見を聞きながら新しい学校像を描いていきたい。

参加者②：豊かな自然環境がありつつ適度な便利さもあることに魅力を感じて多気町へ移住してきた。今までの学校のようなコンクリートのような建物ではなく、最新の事例も参考にしながら木材を使用した魅力ある学校をつくってほしい。

事務局：躯体は木で建設すると朽ちるのが早くコストがかかる。その点も含めて木造とするかは検討していきたい。バイオマス発電についても今後検討していきたい。

参加者③：通学路専用の道路を作る予定はあるか。

事務局：検討段階ではあるが、天啓池脇の道路に歩道を整備して、安全に学校まで登校できる通学路を整備する予定である。

参加者②：準備委員会のメンバーは固定なのか。

事務局：メンバーは既に決定しており固定しているが、傍聴は可能である。委員としての参加はできない。

参加者③：相可台地区からの通学路について、山道しかないが迂回する道ができるのか確認したい。また、熱中症対策として教室には空調が設置されると思うが、体育館にも空調を整備する予定はあるか。

事務局：事務局案として、相可台の交差点から校舎まで970mの通学路を想定している。体育館については夏場の体育の授業もあるため校舎と合わせて空調を整備することを想定している。多気中学校が今後の多気町の学校整備の一つの基準となるが統合小学校は整備される時期がもう少し先になるので、その時代にあわせた学校を作っていきたいと考える。

参加者④：県道松阪度会線は外城田小学校の児童の通学時の安全性確保が目的であったと認識しているが、廃校になったあとに道路が整備されるのはもったいないのではないか。

事務局：調査や用地買収等を行ってから着工することになるので、まだ数年はかかる。廃校になった頃に着工することになると想定される。通学する児童の安全性確保が主目的でなく、通勤や経済活動等を考慮した道路整備である。